

の診療に従事していただくという方法、これは引き続き元の科のスペシャリストとしてすぐに復帰できる道として、すべての女性医師に受入れていただけることではないかと思ったのです。

私どもの女性総合医療センターは、臨床、研究、女性医師支援の3本柱で対応できると考えています。

東京女子医大ではとても良いシステムがございますが、金沢ではまだ遅れていました。その意味でも女性医師でジェネラリストになっていくのか、スペシャリストの道を選ぶのか、はたまた、女性の第三の道を選ぶのか…。金沢医科大学女性総合医療センターは、ライフステージにおいて色々悩んでいる女医さんに対してスクランブル交差点の役目を果たせるのではないかな、と思いをはせてもいます。

さらには、男性医師の勤務の環境の改善のためにも、短時間雇用システムの女性医師の参画はとても重要になります。現在、社会の雇用システムや、子育て介護などインフラが、働く者のためにはまだ制

度も財政も整っていない過渡期にあります。だからこそ、地方における女性総合医療センターの役割は大切になるのではないかと考えています。まだ、私自身手探りの中、人生を歩んでおりますし、混乱して迷惑をかけてしまったりしております。沢山の卒業生や同窓の先生から叱咤激励をいただきながら、新しい何かを作っていければと思って日々をすごしております。

医師以外の様々な方々に支えられた、卒業生の沢山の先生、石川県医師会では、近藤邦夫先生の女性医師支援のお話をいただいて活動する場を作ってくださいました。北辰同窓会の坂本先生、伊藤先生、吉田先生、大島先生などの皆さんに女性医師の支援組織として北辰同窓会に水月会を参加させてくださいました。本当にうれしく心より感謝申し上げます。

北辰同窓会会員が、母校である大学や病院で色々活動できる場所はたくさんあると思います。もっともっと交流を深めて行けるよう祈っております。

## 寄稿

## 金沢医大北辰同窓会の皆様へ

中村 はるね

(はるねクリニック銀座院長兼理事 昭和55年卒業)

この度北辰同窓会常任役員会にて、名誉ある同窓会賞にご推挙いただきました事に、心より感謝と御礼を申し上げます。あいにく7月10日の同窓会総会には外来の他に二件の講演会が入り、金沢に飛べない事を深くお詫び致します。

鳥小屋以外何もなかった内灘砂丘の学び舎から数えますと、余命の半分以上が過ぎ、若さがまぶしく羨ましい歳になりました。その後「きけ わだつみのこえ」の編者であり産婦人科医の父のあとを追って、東大分院の産婦人科医局に飛び込んでから丸30年。女医と都会の真ん中のクリニック経営、障害を持った父母や娘を守る事、わだつみ平和文庫の維持などは、筆舌に尽くしがたい日々でございます。不眠不休は体に悪いです！。ソフトランディングでも良かったはずなのに…と思うと医療崩壊にさせていった

のは私達の責任であるのかもしれませんが。

しかしここまで走り続けてきた理由は、毎日今も、BSTで学んだSOAPが基盤になっています。つねにAssessmentし、Planをたてる。百回転べば百一回起き上がる。患者様のためには身を惜しまず診療し、書きとめてパンフレットか本の出版にする。今はボロボロですが、走りながら休憩するワザが必要になりますね!!

今欲しいもの:のんびり出来るところでシニア語学留学です。誰か銀座で院長していただだけませんか?お待ちしております。

そして改めて、この受賞に心から御礼申し上げますとともに、金沢医大の永遠の発展をお祈りし、また寄与致したいと考えています。

2010年7月10日土曜日